



国民の森林・国有林



現地検討会の様子

## 第2回保護林管理委員会を開催 霧島山生物群集保護林でシカ被害に 関する現地検討会を併せて行う

10月23・24日の2日間にわたり、えびの岳（霧島山生物群集保護林）においてシカ被害に関する現地検討会を行うとともに、第2回保護林管理委員会を開催しました。

### シカ被害に関する 現地検討会を開催

1日目の現地検討会では、えびの岳（霧島山生物群集保護林内）の登山道を回り、シカ被害の現状について確認しました。

霧島山生物群集保護林は、宮崎県と鹿児島県の県境に位置し、アカガシ群落、ブナ、スズカケ群落など暖温帯から冷温帯までの垂直分布を有し、固有種をはじめ貴重な種が保存されている保護林です。しかし、近年シカの増加に伴い、下層植生の衰退など生態系への影響が危惧されています。

現地では、ノカイドウ自生地における植生保護柵の設置箇所、ミスナラ等の食害や下層植生の状況を確認しました。

### 保護林管理 委員会を開催

2日目は、第2回保護林管理委員会を霧島市内で開催しました。

冒頭、原田隆行森林管理局長から「昨日、霧島山生物群集保護林のシカ被害状況を視察していただいたところだが、今後シカ被害対策を中心に、保護林をどのような観点で保護・管理していくのか、対応方針や優先順



保護管理委員会の様子

位を決めながら取り組んでいきたい」との挨拶があり、その後、「保護林におけるシカ被害の状況及び被害対策」「保護林の保全に係る対応方針」「令和2年度保護林モニタリング調査箇所（案）」について順に審議を行いました。

現状と対策について、林野庁経営企画課生態系保全室から来年度実施予定のシカ捕獲事業や全国のシカ対策について説明を行いました。

「保護林の保全に係る対応方針」についての事務局からの説明に對しては、「シカ被害レベルの高い保護林の優先順位が高い対応方針となっているが、本来の植生が維持されているフロントライン付近（被害地との境）の保護林の対策も重視すべき」「シカにより森林に深刻な被害が生じていることについて、国民へ普及・啓発することが大事である」などの意見が出されました。

「令和2年度保護林モニタリング調査箇所（案）」については、調査箇所選定の考え方及び具体的な調査箇所を事務局から説明し、了承されました。

九州森林管理局では、いただいたご意見を踏まえ、保護林の保全管理に引き続き取り組んでいくこととしています。

※本管理委員会の審議概要は、九州森林管理局HP（キーワード：保護林管理委員会）でご覧いただけます。  
(担当：計画課)



# 熊本県ブロック市町村長有志協議会を開催

【熊本森林管理署】10月16日、

熊本市内のKKRホテル熊本において、令和元年度の熊本県ブロック国有林野等所在市町村長有志協議会を国有林が所在する熊本県内の市町村長（担当部課長の代理を含む）をはじめ、川畑充郎熊本森林管理署長及び工藤孝熊本南部森林管理署長ほか署関係者、九州森林管理局の林視業務管理官ほか局関係者、来賓として古賀英雄熊本県森林局

長が出席し開催しました。

会議では、藤原昭博総括地域林政調整官の司会進行により、林業務管理官等の挨拶の後、副代表世話人である梅田穰山都町長が座長を務めて、本年度の局・署の重点取組事項、令和2年度林野庁予算概要要求の概要、本年度からスタートした森林経営管理制度と森林環境譲与税等を説明した後、各市町村から国有林に対する意見や要望等が出されました。

## 有志協議会の様子



各市町村からの意見や要望としては、森林経営管理制度が円滑に進むように国有林においても市町村の林務職員への技術的な支援や情報提供等が要望されるとともに、林業担い手の確保やシカ被害対策等に質問が出され、活発な意見交換を行いました。

当署及び熊本南部署としては、引き続き関係市町村との連携・協力を深め地域の森林・林業・木材産業の活性化に向けて取り組んでいく考えです。

## 令和元年度健康週間「心とからだの健康」の保持増進

【大分森林管理署】10月2日、

大分森林管理署では、本局の令和元年度健康安全管理重点目標である「心とからだの健康」の保持増進を踏まえて、今般、国家公務員健康週間の実施計画に基づき、健康管理のより一層の充実を図る取り組みを実施しました。

1日は、坂本和隆大分森林管理署長が、「本日スタートの健康週間を契機としてあらためて心とからだの健康に目を向け、一層の健康管理に努めましょう」と挨拶を行い、準備した安全衛生旗の掲揚を行い啓発を実施しました。

2日は、健康に関するDVDを鑑賞後、当署の心の健康づくり相談員である、馬場政宏クリニック馬場院長先生を招いて「自殺予防の基礎知識」をテーマに講話を受けました。

講話内容について、我が国における自殺者の推移、背景、自殺未遂者の精神疾患など自殺に至る要因、自殺のプロセスから脱出するためには、家族や友人、職場の仲間などから適切なサポートを受ける必要がある。①心配していることを言葉にして伝える②「死にたい」という気持ち



馬場先生による講話の様子

の有無について率直に尋ねる③「死にたいほどつらい」相手の気持ちに傾聴する④安全を確保する。このように、SOSのサインに早く気づきトンネル・ピジョンから脱出させることが重要である」と講話をいただきました。

講話を聞き終え、周りの人が早くSOSのサインに気づきサポートすることが大切であると感じたという職員の声がありました。

おわりに、本日の貴重な講話の内容を振り返り、客観的な判断ができなくなってしまう（トンネル・ピジョン）から抜け出すためのサポートの重要性を認識したところであり、明日からの健康管理に役立てていきたいと、馬場先生に対して御礼のこ

## 交通安全優良事業所の表彰状を授与

【宮崎南部森林管理署】10月17日、

日南警察署講堂において、日南警察署長及び日南地区安全運転管理者等協議会から「交通安全優良事業所」として当署が表彰を受けました。

当署では毎年、日南警察署に講師を依頼し交通法令講習会の実施、免許を取得して日が浅い職員等に対して日南地区安全運転管理者等協議会主催による安全運転講習会への参加及び署の安全運転管理者を安全運転管理者講習会に参加させるなど様々な安全運転への取り組みを行っています。



表彰を受ける野邊次長



## 労働局、労基署と合同で安全パトロールを実施

【福岡森林管理署】10月10日、杉野隆二次長、金田伸也総括森林整備官、白坂進主任森林整備官、高本宗昭森林整備官、大宰府森林事務所園田清隆首席森林官5名と福岡労働局安全専門官、福岡中央労働基準監督署安全専門官等職員7名が合同で宇美山国有林の森林整備事業（保育間伐【活用型】）箇所において安全パトロールを実施しました。



はじめに、大宰府森林事務所園田首席森林官より契約概要及び現地作業について説明を行いました。次に杉野次長より福岡森林管理署の概要等について説

### 伐倒作業中の注意点を確認

労働局からは、伐倒作業時の注意点、令和元年度の労働災害（死亡災害）発生状況、上半期における林業・木材製造業の災害分析結果などについて資料を基に説明を受けました。

また、安全パトロール結果について労基署より講評を受け、「第13次労働災害防止計画」において林業が重点業種として指定されていること、伐倒作業における災害は全国的に多く発生していることから、安全確認を確実に行うよう指導があり、参加者全員で確認しました。



### 意見交換会の様子

【熊本森林管理署】10月17日、当署管内の阿蘇深葉国有林で実行中の阿蘇深葉10林道新設工事の現場において、令和元年度の労働基準監督署との連絡協議会を当署、菊池労働基準監督署、請負事業者関係者の28名が参加して開催しました。

協議会は、歌野邦美総括治山技術官の司会進行により、川畑充郎署長の開会挨拶に続いて、受注者の大政建設現場代理人より工事概要の説明があり、その後参加者全員で事業地内の安全パトロールをチェックシ

## 菊池労基署との連絡協議会を開催

トに基づき実施しました。安全パトロール終了後、参加者全員でパトロールの結果について意見交換を行うとともに、菊池労働基準監督署の上村第二方面主任からパトロール全体の講評と、最近の熊本労働局管内の災害状況、リスクアセスメント等について指導して頂きました。

当署としては、本年度に1件の請負事業者の災害が発生していることから、参加者全員で「これ以上の災害は絶対に出さない、出させない」ことを誓い合い、有意義な協議会となりました。

## ペーパーポットコンテナ

### 中苗植栽の現地検討会を実施

【熊本南部森林管理署】10月11日に当署西浦国有林内（誘導伐事業実行箇所）において、ペーパーポット中苗植栽等の現地検討会を開催し、五木共同施業団地の協定者や地元育苗業者及び関係者など35名が参加しました。

冒頭に工藤孝署長より「低コスト造林の確立は喫緊の課題。コンテナ苗の増産や中苗導入等、取り組みの現状について皆さんと共有し意見交換を図りたい」と挨拶があり、続いて鎌田敏雄森林整備課長より、コンテナ苗



### パトロールの様子



### 現地検討会の様子

の現状等についての挨拶のあと、ペーパーポット苗を育苗している長倉樹苗園の代表取締役長倉良守氏から、これまでの取組みの過程やペーパーポット苗のメリットなどの説明を受けました。

また、長倉樹苗園と宮崎大学により開発した、植付距離を測るアプリ「しゃくとりさん」の説明と実演がありました。

その後、植付箇所へ移動し植穴掘機「ほるほるくん」を用いながら参加者全員でペーパーポット中苗200本を植樹しました。

参加者からは、「ペーパーの分解期間はどれくらいか」「根が崩れることなく植えやすかった」などの質問や意見が出されるなど関心の高さが伺え、有意義な現地検討会となりました。



# 分収造林をフィールドに 重機による下刈り試験を実施

【大分西部森林管理署】10月18日、大分県玖珠町の野上平家山

国有林内の造林地で、雑草やかん木を刈るアタッチメントを装着したパワーショベルを稼働させ、下刈り作業への利用可能性を調査しました。

アタッチメントは、ハンマーナイフが回転するタイプと円盤状の刃が回転するタイプの2種類が用意され、それぞれ「クサカルゴン」「ブッシュユマン」という名称で商品化され、河川敷や造園工事などで使用されています。



パワーショベルを稼働させて調査を実施

町に所在する久大林産（株）が造林者となった分収造林地で、

同社が用意したサイズとパワーの異なる2種類のベースマシン（いわゆる「コンマ一」と「コンマ25」）が造林地に進入して作業を行っていききました。

ハンマーナイフ式のアタッチメントは、カバーの中に格納されたナイフが回転するもので、オペレータはカバーを雑草木の上方からかぶせるようにして刈り払いを行うため、苗木を誤伐するおそれは小さいようでした。人の手首ほどの直径の木竹も処理が可能とのことであり、下刈りだけでなく除伐にも活用の可能性がありそうでした。雑草

木は粉碎されてカバーから排出され、メーカー担当者によれば、林地を被覆してさらなる雑草木の生育を抑制する効果も期待できるとのことでした。

ベースマシンは、ナイフの回転速度といった性能を損なわずにベースマシンの操作も円滑に行える油量と油圧を備えたコンマ25サイズが好ましく、オペレータによれば斜面での安定性の面



雑草やかん木を切るアタッチメントを装着したパワーショベル

行えば、能率は相当向上するものと思われました。重機による作業の実現により、炎天下でも冷房の効いたコックピットで、蜂などを気にすることもなく快適に作業するオペレータの姿が想像されました。また、下刈り作業は、誤伐や踏み付けを避けるため、苗木の植栽位置に予め棒を立てて行いました。が、ツリーシェルターを使用すればオペレータへの目印になるとともにシカネットの設置も省略できるとの

意見など、シカ被害対策も含めたトータルでの造林コストの低減に向けた様々なアイデアが出ていました。

この行事は、久大林産（株）が大分県の支援事業を利用して森林施業の機械化に取り組み中で実現したもので、大分西部流域林業活性化センターによる「再造林・保育施業機械化実装支援事業研修会」として開催され、4名の当署職員を含む約50人の関係者が参加しました。

当署としては、分収造林という手法も活用しながら、地域の課題解決に積極的に関わり組む優れた林業事業体を育成・支援できるよう、国有林のフィールドの提供などにより民有林との連携を深めていきたいと考えています。

## 屋久島地杉苗木生産協議会 （挿し穂採取）を開催

【屋久島森林管理署】10月8日、八ヶ岳国有林68林班内において屋久島地杉苗木生産協議会メンバー及びオプザバーとして当署、保全センター、鹿児島県の行政関係者を加えた18人で秋挿し木の挿し穂の採取を行いました。



奥村生態系管理指導官による説明の様子



現地では、事務局の屋久島森林組合寺田久志総務課長の司会進行により、作業前に保全センターの奥村克生生態系管理指導官から穂木の取り方の注意点や現在までのコンテナによる挿し木試験の状況について、コンテナ苗を現地に持ち込んで説明しました。その後、各事業体ごとに合計で5000本の挿し穂を採取しました。

島内では、利用期を迎えたスギ人工林が多く、今後は主伐再造林を行い循環利用することが一つの課題であります。今後、苗木の安定的な確保のため、確実な生産体制の構築に向け関係者と連携して取り組んでいくこととしています。

## 五島地区組織造林地の連携に向けた打合せ会議を開催

【長崎森林管理署】9月18・19日の両日に五島市において長崎県五島振興局、五島市、森林整備センター九州整備局、長崎県林業公社と長崎署の関係機関が参集し、五島地区における組織造林地の連携に向けた取組について打合せ会議を開催しました。これは、五島地域における木材需要や供給体制が十分とは言えない中で、他の地域と同様に島内の人工林も利用期を迎えている状況にあるため、現在島内

唯一の林業事業体である森林組合主体の体制から、新たな林業事業体の参入を即すために組織造林地を有する関係機関が連携して、事業の見える化、効率な路網の整備を行うことにより、安定した事業量を確保することが必要であるとの認識の基に参集したものです。

1日目は、各機関毎の主伐・間伐の洗い出しや、次期地域森林計画にどのように反映させていくのか、また、主伐箇所が少ない中でどのようにして数量を確保するのか、島外へ搬出するための素材の集積場所は、運搬船の係留箇所の確保などの離島ならではの問題点について意見交換を行いました。



意見交換会の様子

2日目は、市有林、森林整備センター林、富江官行造林地が隣接した五島市富江地区において、搬出のための路網の状況や今後の森林整備、主伐の実施の可否について現地検討を行い、主伐時の伐採区域の設定、間伐の実施方法等について活発な意見交換ができました。

【熊本森林管理署】10月24日、林野庁海外林業協力室の要請を受けて熊本市内で開催されたモントリオール・プロセス（\*）作業部会への現地説明を実施



現地検討会の様子

作業部会第28回会合に参加した各国の部会メンバー等の20名に對して、当署管内の北向山スギ等遺伝資源希少個体群保護林を川畑充昭署長と野田祐治治山技術官が説明しました。

この作業部会の現地調査は、10月21日から開催された第28回会合の一環として企画されたもので、我が国の森林・林業の現状等の紹介のため北向山スギ等遺伝資源希少個体群保護林の他に、九州森林管理局が実施している民有林直轄治山事業箇所や白川水源、阿蘇ユネスコジオパークなどを視察されました。

の保護林制度、九州森林管理局内の保護林の現況や北向山スギ等遺伝資源希少個体群保護林の概要、さらに隣接地で実施している熊本地震等の復旧のための治山事業の実施状況等について説明しました。

参加者からは、「希少な遺伝資源をどのように守っているのか」「シカはなぜ増えたのか、またその対策はどうしているか」など多くの質問があり、我が国の保護林制度等について理解を深めて頂きました。

当署としては、国内外を含め様々な視察を受け入れて、引き続き国有林の取組等について積極的にPRしていく考えです。

## 川畑署長による説明の様子

（\*）モントリオール・プロセスとは、森林の持続可能性を客観的・科学的に把握や分析するための「基準・指標」を議論する国際的な取組です。日本を含む環太平洋地域の温帯・亜寒帯林地域を対象とする12カ国（アメリカ、アルゼンチン、ウルグアイ、オーストラリア、カナダ、韓国、中国、チリ、日本、ニュージーランド、メキシコ、ロシア）が加盟しています。





## 「くじゅうの自然に感謝する日」の活動に参加

【大分西部森林管理署】10月11日、「くじゅうの自然に感謝する日」の活動として、署員12名が参加して、九重町の牧ノ戸峠周辺の国有林でミヤマキリシマの刈り出し作業を行いました。

「くじゅうの自然に感謝する日」とは、私たちに多くの恵みを与えてくれるくじゅうの自然に感謝することを趣旨として、賛同する多くの団体が、毎年、登山道の補修や外来植物の駆除、ゴミ拾いなど環境保全のための一斉ボランティア活動を行っており、当署は毎年、ミヤマキリ



ミヤマキリシマの刈り出し作業の様子

「くじゅうの自然に感謝する日」とは、私たちに多くの恵みを与えてくれるくじゅうの自然に感謝することを趣旨として、賛同する多くの団体が、毎年、登山道の補修や外来植物の駆除、ゴミ拾いなど環境保全のための一斉ボランティア活動を行っており、当署は毎年、ミヤマキリシマの刈り出し作業を行っています。

シマの生息環境を改善するため、刈り出し作業を行っています。

ミヤマキリシマは、九州の標高約1000メートル以上の山地に生息するツツジの一種で、国の天然記念物に指定されているほか、九重町の「町の花」にも指定されています。毎年5月から6月にかけて見頃を迎える

## シカ被害対策協定締結

【熊本南部森林管理署】10月10日、あさぎり町役場において当署とあさぎり町との二者によるシカ被害対策協定の締結及びシカ罾の引き渡しを行いました。当署においては湯前町、五木村、水上村、人吉市に続き5番目の協定締結となります。

工藤孝熊本南部森林管理署長より「現在、農山村はシカの被害拡大によりかなり疲弊している状況です。この協定で少しでも町のお役に立てることを願います」と述べると、尾鷹あさぎ



協定を交わした尾鷹町長と工藤署長

り町長より「昔はシカを一匹見るだけで驚いたものです。しかし今では頭数が増え、農作物の被害で困っている状況。シカの罾の貸与はありがたい。森林管理署に感謝します」と述べられました。

調印のあとは、町長にシカ罾の実物を見ていただきました。その後、あさぎり町の職員を前に小薄政弘総括森林整備官よりくくり罾の設置の実演を行い、設置方法と安全対策についての説明を行いました。

初めて見る職員は挟むときの音に驚いていました。当署においては、シカ被害の軽減に向けて、地元との協力を図りつつ、他町村でも取り組みを進めていく予定です。

## 「楯の松原」で体験林業を実施

【福岡森林管理署】10月4日、新宮中学校の1年生302名が「白砂青松タイム」(体験林業)として楯の松原(下府浜国有林45林班内)で除伐作業を行いました。

この取組は防風・防砂・防潮の役割を担っている松原の保全作業を生徒が体験することで、長年に渡り育て維持してきた先



体験林業の様子

人たちの苦労や松原保全の大切さについて理解することを目的としています。

地域でボランティア活動を行っている「筑前新宮に白砂青松を取り戻す会」が全体管理・進行を行うなかで、署からは角署長をはじめ7名の職員が作業を指導しました。

生徒たちは、手鋸と松葉ほろきを持ち、協力しながら熱心に作業に取り組み、作業後の松原を見て達成感を感じている様子でした。

「筑前新宮に白砂青松を取り戻す会」の桐島会長の挨拶では



「私たちがいなくなったら後も100年、200年と松原が残っているように」との言葉もあり、生徒たちにとって松原保全について学ぶ良い機会となったことと思います。

## 大分県内の林業分野への就業を目指す担い手確保を支援

【大分森林管理署】10月17日、「おおいた林業アカデミー」を運営する公益財団法人「森林ネットおおいた」（理事長 重本悟氏）から講師派遣の要請により、由布市湯布院町に所在する大分県林業研修所に、当署職員5名、薄森林技術指導官、高倉総括森林整備官、嶋主任森林整備官、井上主任森林整備官、蒲池森林整備官、田吹技官の6名を派遣して講義を行い「担い手確保」の支援を行いました。

この「おおいた林業アカデミー」は、平成28年度から実施されており、平成30年度までの3ヶ年に25名の研修生が卒業され、大分県内の林業分野で活躍されています。本年度で4回目となります。4月から3月までの約1年間に森林・林業・木材産業に関する基礎的な知識や技能講習、森林施業の現地研修などのカリキュラムを受講して、卒業後は大分県内の林業分野の担い手としての活躍が期待されています。



講師 井上主任森林整備官による現地研修

大分森林管理署としては、大分県内の林業就業者数の現状を踏まえ、林業の「担い手確保」の観点から当署職員を派遣し支援することとしました。午前中は、①森林・林業・木材産業の現状と課題 ②森林整備を推進するために、木材の生長と間伐理論 ③木材の安定供給と採材。午後からは、星岳国有林に移動して間伐展示林において現地研修を行いました。

各講師とも、持ち時間のはじめの頃は緊張感が漂っていましたが、時間とともに緊張もほぐれて講義終了の際は質問もありました。質問では、1日の生産量ほどのくらいか、国有林はどのような販売を行っているのか、現地では、列状間伐の手法等質問がありました。

ありました。

当署としましても、林業の担い手確保は重要な課題であると考えており、大分県で取り組まれている重要な施策でもあります。このような要請があった場合は、積極的な支援を行って林業の成長産業化へつなげていく取り組みを進めていきます。

## 林業関係事業者との採材検討会を実施

【大隅森林管理署】9月19日、当署管内の大鹿倉国有林3071い林小班の土場で採材検討会を開催しました。

この採材検討会では、当署職員と当署関係事業者18社の約60



土場での採材検討会の様子

名が参加しました。当日は、原一林業株式会社協力の下、国有林から搬出した材を4本1セツトで3セツト作り、生産業者と市場関係者を3班に分けて、班ごとで検討会を行いました。

その後、班ごとに採材方法を発表し、全体で討論しました。討論の際には、双方から意見が上がり、市場関係者からは「林業機械の高性能化が進んではいるが、採材の仕方があまりよい気がする」という意見や、生産業者からは「従業員が減りつつある中、丁寧な採材には限界がある」等、白熱した討論が行われました。また、途中に、プロセッサやチェーンソーで実際に切り、曲がりや腐れ等を確認しました。

最後に、生産事業者と市場関係者で相互扶助の考え方をもち国有林野事業を行って行くことを再確認し、検討会を終えました。当署としても生産事業者と市場関係者と一体となり国有林野事業を進めていきます。

## 「連合の森」の森林整備を実施

【熊本森林管理署】10月27日、当署管内の阿蘇深葉国有林内の分収造林契約地「連合の森」において、連合熊本菊池阿蘇地域協議会主催による列島クリーン



火おこし体験の様子

キャンペーンの自然環境保全活動の一環として「連合の森」の森林整備作業を、当署関係者12名を含む約70名が参加して開催されました。

開会式では、川畑充部署長から「25年間の長きにわたり森林整備作業を続けていることに敬意を表するとともに、このすばらしい森林が次世代に繋がるように継続した活動を期待します」との挨拶に続いて、松本輝生総括森林整備官から作業上の注意事項等について指導しました。参加者は、「連合の森」内の歩道補修作業と旧内牧小学校深葉分校での森林教室の二班に分かれて活動を行い、当署職員の指導のもと歩道補修作業では既設歩道の階段部分の丸太交換を行い心地よい汗を流すとともに、



森林教室では子供達を対象に松ぼっくりを利用したクリスマスツリーの作成と火おこし体験にチャレンジして楽しみました。作業終了後は昼食交流会を開催し、参加者から当署に対して事前準備や指導等の協力に対して多くのお礼の言葉を頂きました。

当署としては、引き続き関係機関等と連携して国民参加の森林づくりと森林環境教育活動の推進を積極的に実施していく考えです。

## 山の目 制定記念

「森の恵み・自然観察会」を開催

【熊本南部森林管理署】相良村の椎葉国有林において山の目制定記念行事として自然観察会を開催しました。

当日は環境省希少野生動植物種保存推進員の乙益正隆氏を講師に迎え、一般参加等約20名が参加しました。

冒頭工藤孝署長より、「じっくり観察していただき、秋の一日を堪能してください」と挨拶。乙益先生より「先人たちは植物を生活の一部としていろいろな面で利用してきた。植物は大切にしなければならぬ」との挨拶の後、仰烏帽子山の登山口



都会の中の憩いの森  
監物台樹木園の  
多様な植物

遠い昔、他人の家の生け垣に沿わせるように植えてあった、ムベが暗紫色に熟す頃は、のどから手が出るほど欲しかったことを思い出します。山菜の本には果皮も食べるように書いてあ



### 乙益先生の説明を受ける参加者

まで歩きながら植物の観察をし、植物の名前の由来や薬草としての働きなど幅広い知識に基づいた説明に熱心に耳を傾けていました。その後、小薄政弘総括森林整備官より、ススキを使った「フクロウ」作りの実演があり、参加者は可愛いフクロウに興味津々、「自分でも作成してみたい」との声が聞かれました。参加者からは、「湿布の

匂いがするミズメなど面白い植物も知ることが出来るとも勉強になった」などの意見も聞かれ、有意義な一日となりました。

### お悔やみ申し上げます。

永田 豊 様  
大分森林管理署勤務、農林水産技官 永田豊様は、10月28日ご逝去されました。

(54歳)

## 144 ムベ (アケビ科)

りますが、私の田舎では、果実の中身だけを食べ、果皮を食べる習慣はなかったようです。白い花が咲いた雌花、雄花の判定は難しいです。雄花に1本のオシベがあり雌花に3本の雌しべがある、そのころ植物のメシベは1本と思いきや、びっくりしたことを思い出します。

アケビに比較して、果実は大きく、果肉、果汁ともに多く大変おいしかった。秋の運動会(昔の運動会は秋限定だった)の頃、時々お店で売っているのを見かけました。



語源には朝廷への献上することからのオオニエ↓オオムベ↓ムベの変化による説と天智天皇の「むべなるかな」の説があるようです。

盆栽や庭に植えたムベは自然交配が難しいことから、花が咲いたときに、オシベの花粉をメシベに振りかける人工交配がなされています。

森林インストラクター

安案 行雄



9月23日の国連気候行動サミットでのスウェーデンの若い活動家のスピーチが話題になったが、本当に地球温暖化というものは進行しているのだなと思わされるほど今年の夏も長く、暑い日が続いた▼1ヶ月延長となったクールビズがようやく必要なくなってきた10月の半ば、職場の登山同好会の誘いを受けて、湧蓋山へ登山にいった▼学生時代は毎月のように登っていたものの、最近はずっとで体力の衰えを痛感したが、気持ちのよい風に吹かれながら歩く稜線は当時の意欲を思い起こさせるほど絶景だった▼山という山がまったくない街で育った私にとって、登山は憧れたことも同様で、学生時代は登山や森林での研究に夢中になった。と同時に今まで森林・林業に関する知識がまったくなかったと痛感した▼樹木の炭素固定や木材の炭素貯蔵効果がある森林・林業の温暖化対策への貢献は大きい。その機能を維持・増進することが我々の使命であるし、業務を通して少しでも昔の自分のような人に興味・関心をもちたいことを願っている。(オ)